

臨時レポート

“投資経験者”の意向調査

—新型コロナウイルス感染拡大に伴う金融市場の変動を踏まえて—

2020年7月

MUFG資産形成研究所

目次

1. 調査概要	P.2
2. はじめに	P.3
3. レポートサマリー	P.4
4. 投資経験者の投資の状況と意向	P.5
5. 投資経験者の投資のきっかけ	P.14
6. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う市場変動の影響	P.20
(1) 2月調査と4月調査の比較	P.23
(2) 投資リターンがプラスからマイナスに転じた人の傾向	P.30

調査概要

- (1) 調査名： “投資経験者”の意向調査
- (2) 調査方法： リサーチ会社を利用したWEBアンケート
- (3) 調査期間： 【事前調査】2020年2月4日（火）～2月13日（木）
 【本調査①】2020年2月10日（火）～2月13日（木） → **2月調査**
 【本調査②】2020年4月10日（金）～4月14日（火） → **4月調査**
- (4) 調査対象： 2014年以降に投資を開始した、20～69歳の企業勤務者(企業規模300人以上の会社)
- (5) 本調査設問数： 【本調査①】25問、【本調査②】5問

<割付(回収数)とウエイトバック*(以下、WB)>

(本資料においては、WB後の数値を用いて分析をしています。)

	WB目標値	本調査①		本調査②	
		回収数	WB後n数	回収数	WB後n数
男性	20代	12.4%	515	461	371
	30代	19.0%	515	706	569
	40代	24.0%	515	892	719
	50代	18.7%	515	698	562
	60代	2.5%	299	94	76
女性	20代	7.3%	399	271	218
	30代	6.5%	515	240	194
	40代	5.8%	321	214	173
	50代	3.4%	114	126	102
	60代	0.5%	14	19	15
	100%	3,722	3,722	2,999	2,999

(*)ウエイトバックとは、回収サンプルを母集団の構成に合わせて集計する方法。

本資料では、調査対象の企業勤務者の年代(20歳代以下・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代)および男女の構成比を、総務省「就業構造基本調査」(平成29年)における正規職員・従業員300人以上の企業と同分布となるようウエイトバック集計をしています。

<市場動向と調査タイミング>



“投資経験者”の意向調査の実施について

- 当研究所ではこれまで、現役世代について、資産形成の手段としての投資を身近でなじみやすいものにするにはどうすれば良いのか等の調査を目的として定期的にアンケートを実施してきた。
- 今回の調査では、投資*¹経験が浅い人(2014年以降に投資を開始した企業勤務者*²)を対象として、「投資をされていて良かったと思うか」や投資のきっかけ等の意向を調査することで、投資経験者の“生の声”により近い情報を元に分析し、投資未経験者が投資への一歩を踏み出すための働きかけのヒントを得ることを意図した。
- 本レポートでは、投資経験者の投資に対する意向および投資を促す働きかけのヒントを紹介するとともに、新型コロナウイルス感染拡大に伴う金融市場の変動による投資に対する意向への影響を分析している。

* 1 : 本調査における「投資」には、確定拠出年金での投資性資産の購入も含む。

* 2 : 2014年はNISA(少額投資非課税制度)が開始された年である。

今回は、投資を開始した当時の記憶が新しい人を対象に調査すること、および主要な税制優遇制度が既にある環境下での意向を調査することで、より現在の企業勤務者の実態に近い回答を得ることを意図した。

投資経験者の投資の状況と意向

- 本調査の対象者である投資経験者(「2014年以降に投資開始した、20~69歳の企業勤務者」)の約9割が投資をしていて良かった/どちらかという良かったと回答している。なお、「投資をしていて良かった」の割合は、20代・30代の若年層程高い傾向がある。
- 投資をしていて良かった理由としては、「お金に関する知識に関心が持てるようになった」が上位。

投資経験者の投資のきっかけ

- 投資経験者が一番初めに取引した資産の購入先としては、銀行・証券等のオフラインとネット銀行・ネット証券等のオンラインがそれぞれ約4割、勤務先の企業型確定拠出年金や職場積立NISAも2割弱。
- 投資を始めた具体的なきっかけのうち、外部からの働きかけとしては、「勤務先からの案内」や「職場の上司・同僚」の影響が大きいとの傾向が確認できた。
企業勤務者に対しては、勤務先からの働きかけが投資のきっかけとなる可能性が示唆される。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う市場変動の影響

- 市場変動を経た4月に、1回目の調査(2月)で「投資をしていて良かった/どちらかという良かった」と回答した人を対象に追跡調査をしたところ、約8割は引き続き投資をしていて良かったと回答しているとの結果が得られた。2月調査で投資リターンがプラスでありながら、4月調査ではマイナスに転じた人についても同様で、約8割は投資をしていて良かったと回答していることが確認できた。
- 積立投資をしている人のうち半数超は3月以降から4月調査時点までに売買をしておらず、その理由として「長期スパンでの投資を志向しているため」とする人が約6割を占めることから、経済の動きに関心は持ちつつも、投機ではなく資産形成としての投資に取り組んでいる人は一定数存在するものと考えられる。

投資経験者の投資の状況と意向

2月調査 (新型コロナウイルス感染拡大に伴う金融市場変動前)より、投資の状況や「投資をしていて良かったと思うか」のアンケート回答結果をご紹介します。

投資経験者の投資状況① - 投資資産・商品

国内株式と投資信託に投資したことがある人の割合が高い。

国内株式の個別銘柄や投資信託の取引経験がある人の割合が高い。

なお、この2資産については、継続して取引する人の割合が相対的に高い。

所感

国内株式と投資信託に次いで取引経験がある人の割合が高いのは、ポイント投資/おつり投資。

ポイント投資/おつり投資は少額から投資可能・手続きが簡便等の気軽さから始める人がいると思われ、継続する人の割合も高めであると考えられる。

取引経験のある投資性資産・商品

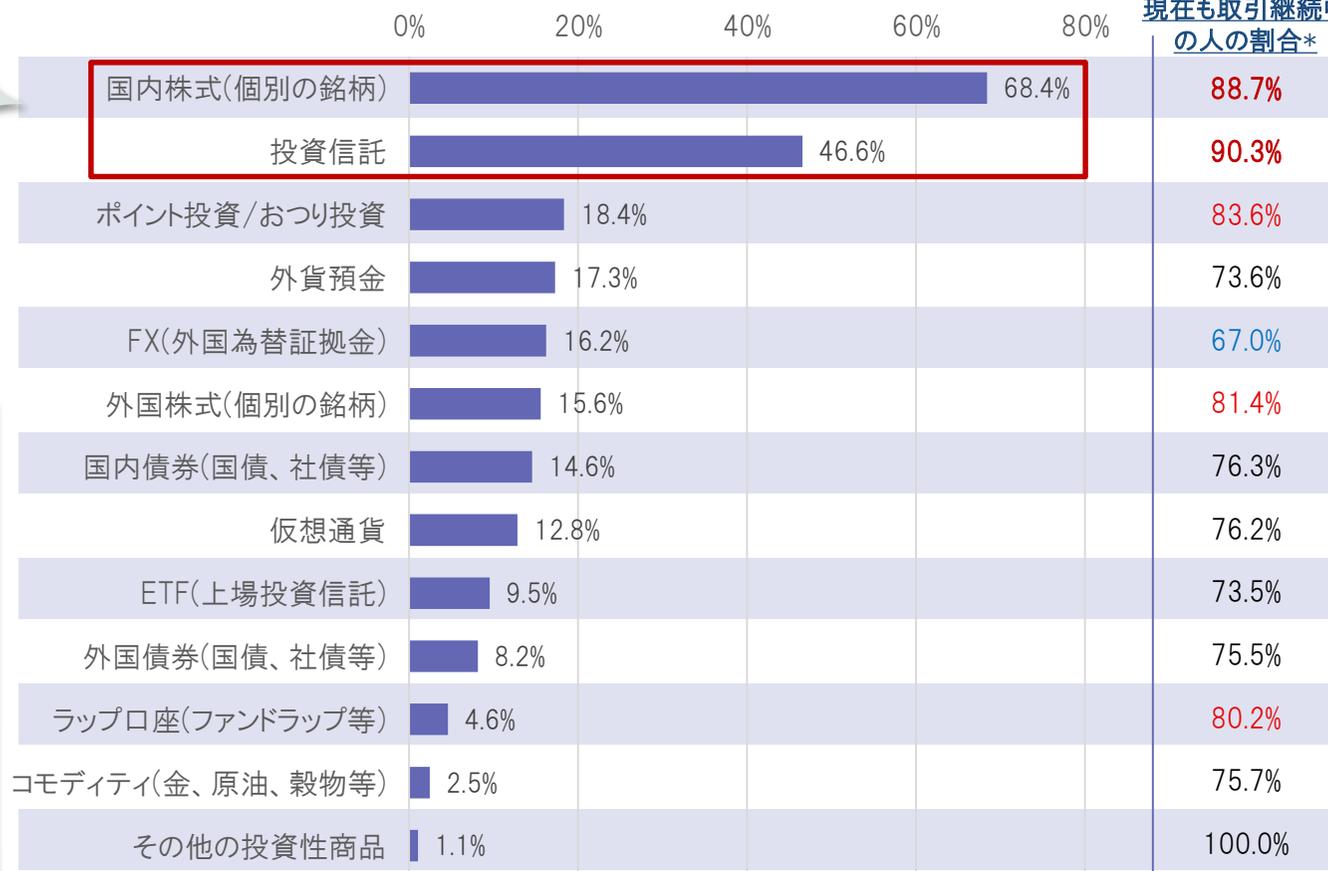
(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

(複数回答, WB後)

取引経験のある
資産・商品について、
現在も取引継続中
の人の割合*



*例えば、国内株式(個別銘柄)については取引経験がある人は68.4%、取引経験がある人のうち現在も取引を継続している人は88.7%であることを示している。

投資経験者の投資状況② - 一括投資・積立投資

一括投資と積立投資を共に実施している人が4割弱と、最も多い。

「一括投資のみ」「積立投資のみ」は共に3割弱と、実施率は同程度。

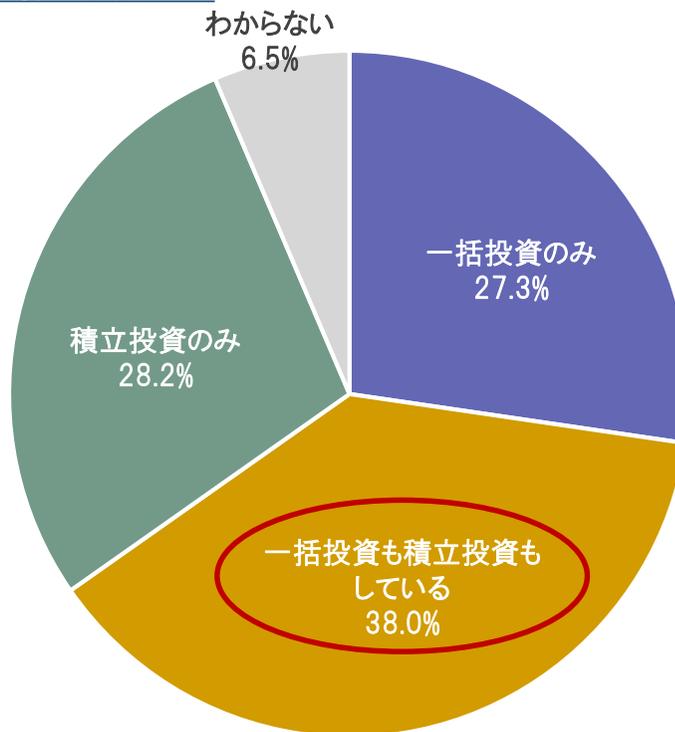
投資方法(一括投資・積立投資*)
(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

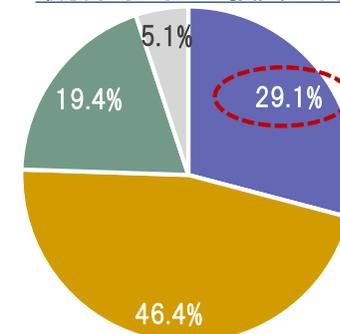
(複数回答, WB後)

<全体 : グラフ1>

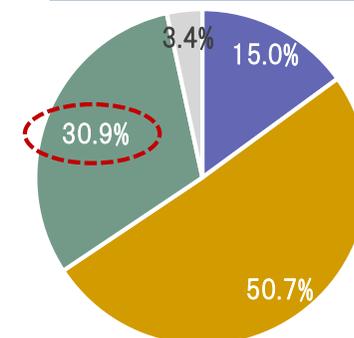


<ご参考 : グラフ2>

現在、「国内株式(個別の銘柄)」を取引している人の投資方法



現在、「投資信託」を取引している人の投資方法



所感

グラフ2は、国内株式および投資信託を取引している人別の投資方法を示している。

国内株式を取引している人は一括投資の割合が、投資信託を取引している人は積立投資の割合が相対的に高めとの傾向が見られる。

*ここでは「一括投資」とはまとまった金額を一度に投資する手法、「積立投資」とは毎月一定の金額を継続的に投資する手法としている。

投資経験者の投資状況③ - 一括投資・積立投資(男女・年代別)

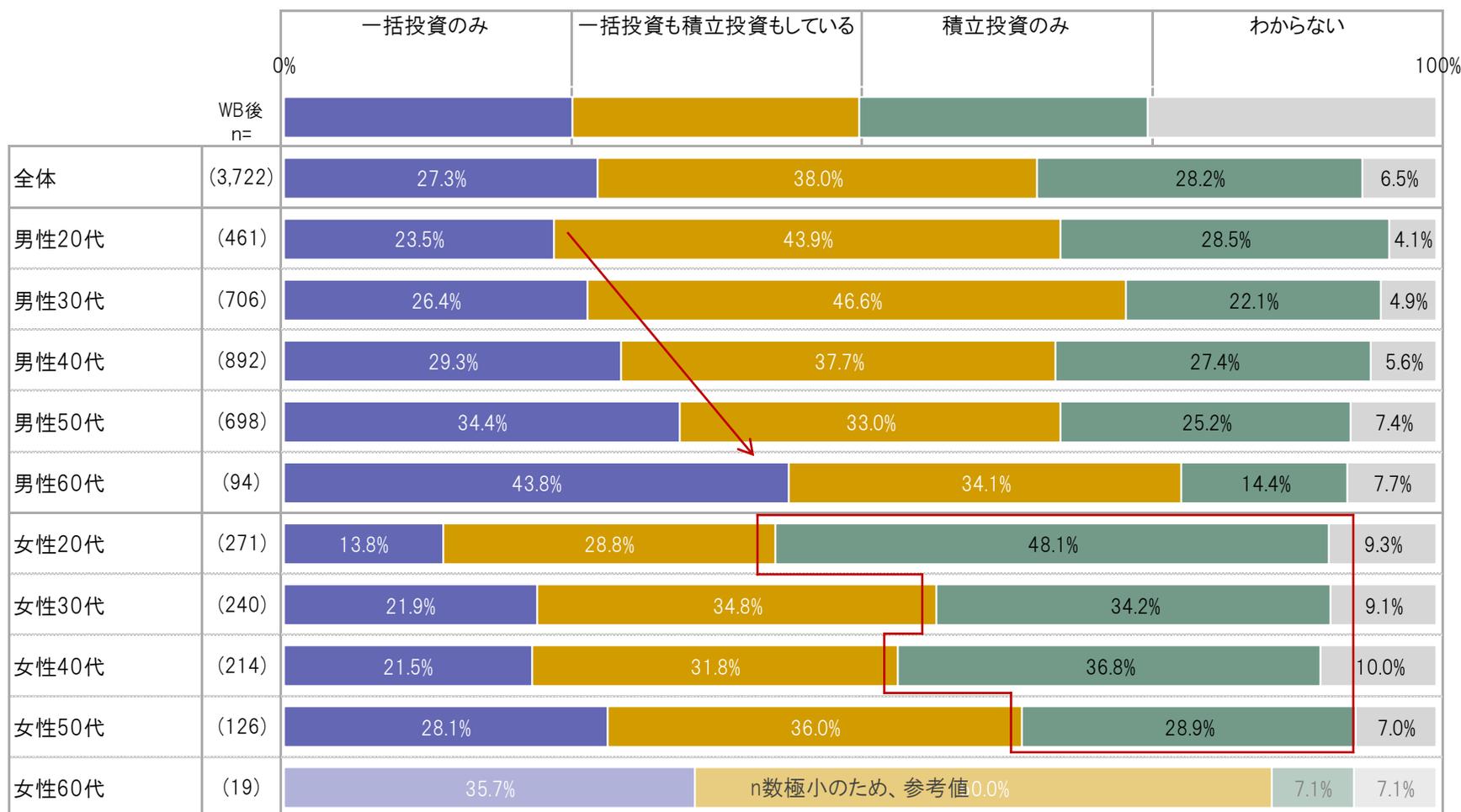
男性は年代が高い程「一括投資のみ」の割合が高い。
また、女性は男性と比較して「積立投資のみ」の割合が高い。

投資方法(一括投資・積立投資)
(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

(単回答, WB後)



投資経験者の投資状況④ - 投資リターン

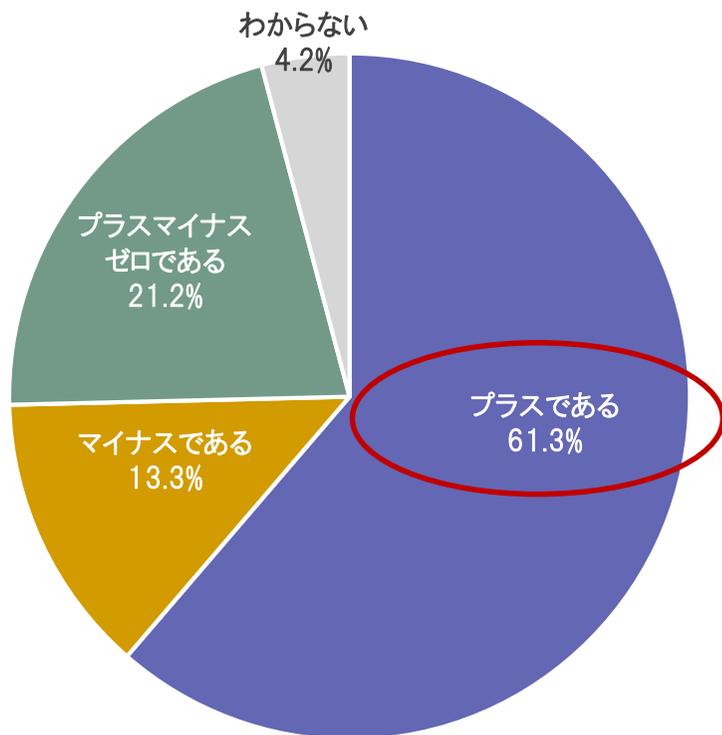
本調査においては、投資リターンがプラスと回答した人が約6割と多い傾向。

投資リターン
(回答者)全員

(n=3,722)

2月調査

(単回答, WB後)



<ご参考> 市場動向(TOPIX)
(2014年1月1日~2020年6月1日)

【ポイント】



投資経験者の意向①

投資をしていて「良かった/どちらかという良かった」人が9割超。

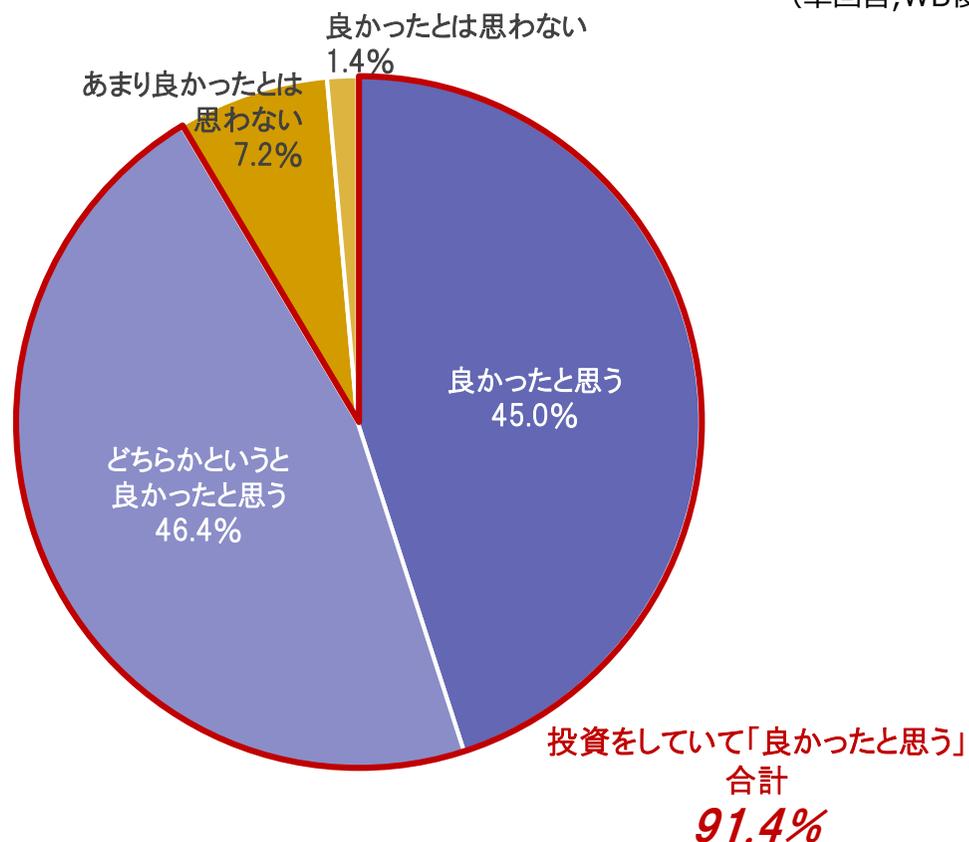
調査対象者の約9割が良かったと回答しており、前頁の「投資リターンがプラス」と回答した人の割合を上回ることから、収益がマイナスでも「良かった」と回答している人が多いといえる。

投資をしていて良かったと思うか
(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

(単回答, WB後)



所感

本調査の対象者である投資経験者は、投資リターンだけで自身の投資を判断しているわけではないことが伺える。

12頁以降で、「良かったと思う」理由等について詳細を見ていくこととする。

投資経験者の意向② - 男女・年代別

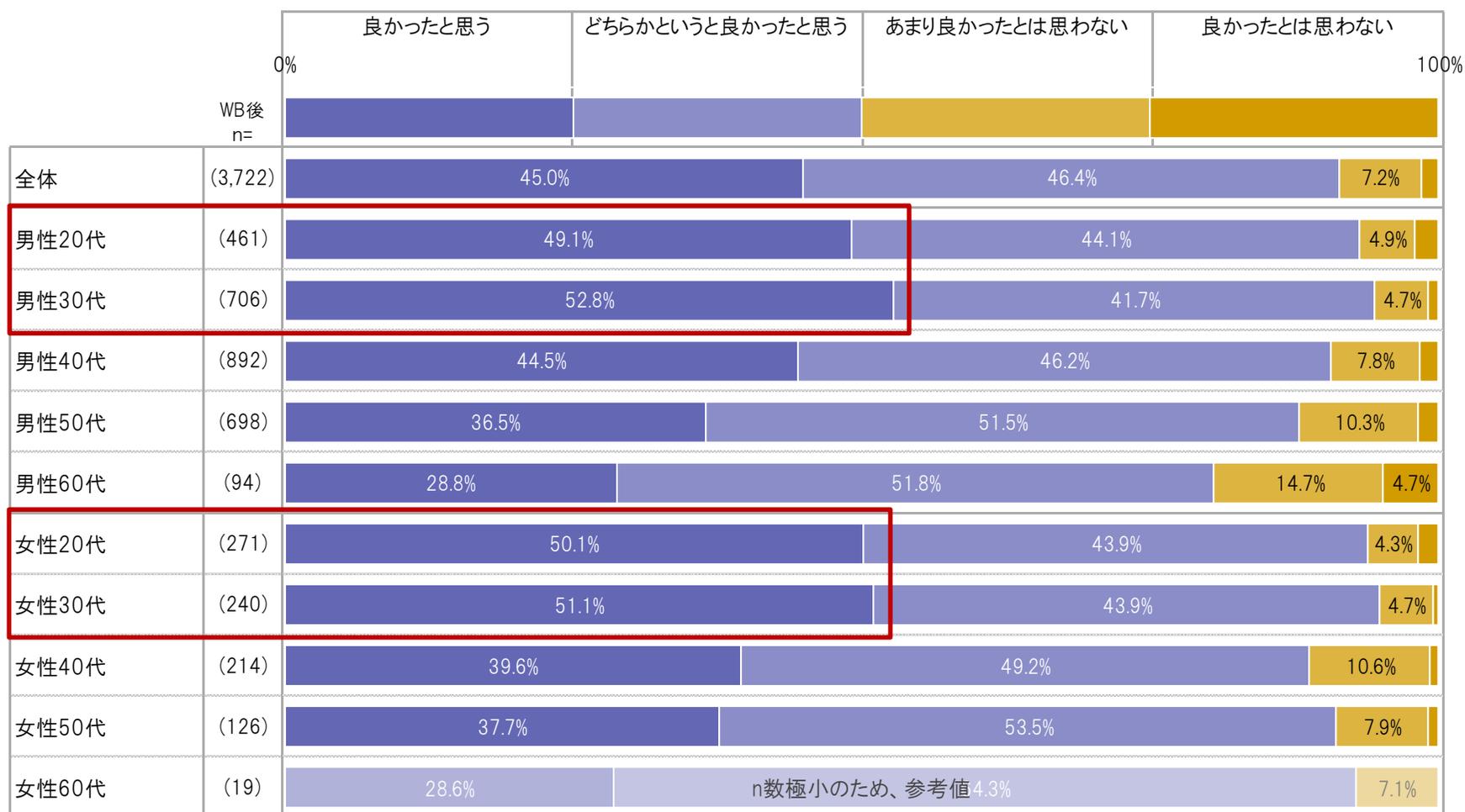
男女とも、20代・30代の若年層程「良かったと思う」と回答した人の割合が高い。

投資をしていて良かったと思うか
(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

(単回答, WB後)



投資経験者の意向③ - 理由

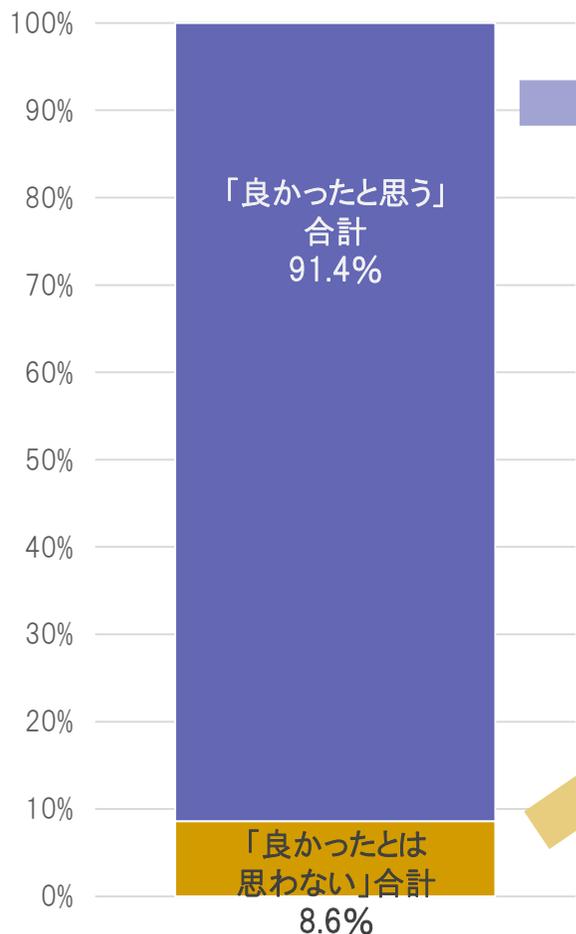
「良かったと思う」人が9割超と大多数。その理由として「お金に関する知識に関心を持てるようになった」を挙げる人が過半数。

2月調査

投資をしていて良かったと思うか

(回答者)全員

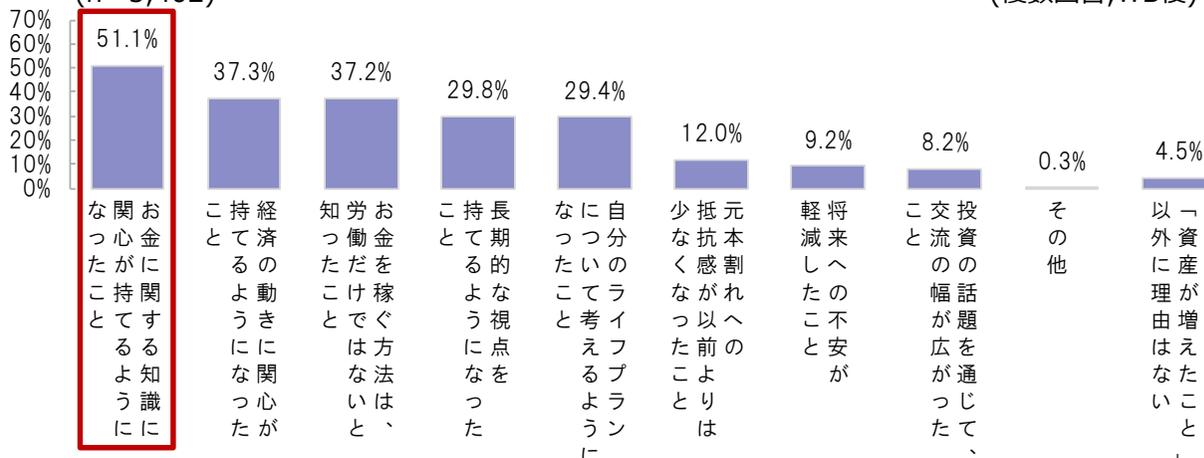
(n=3,722) (単回答,WB後)



良かったと思う理由(「資産が増えたこと」以外の理由)

(n=3,402)

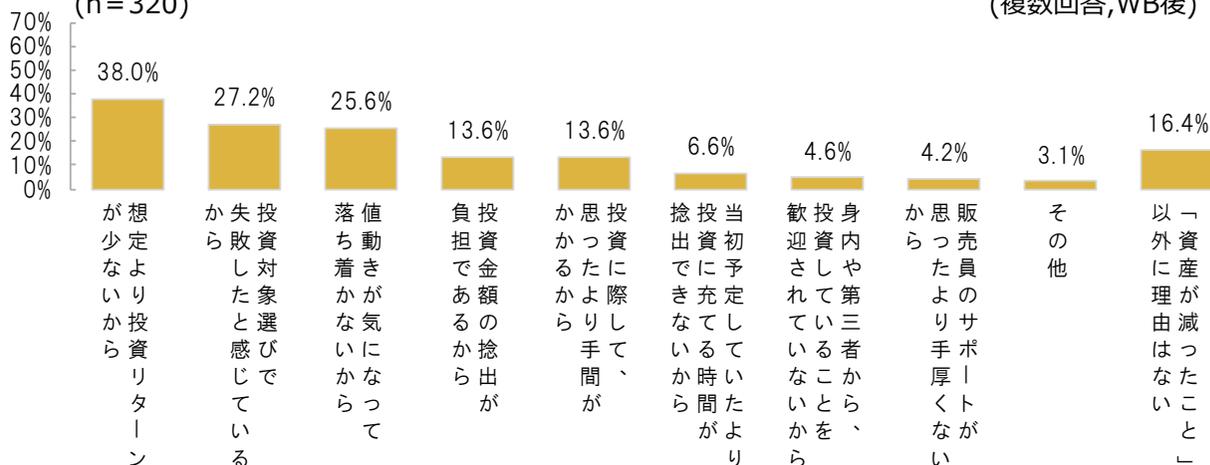
(複数回答,WB後)



良かったとは思わない理由(「資産が減ったこと」以外の理由)

(n=320)

(複数回答,WB後)



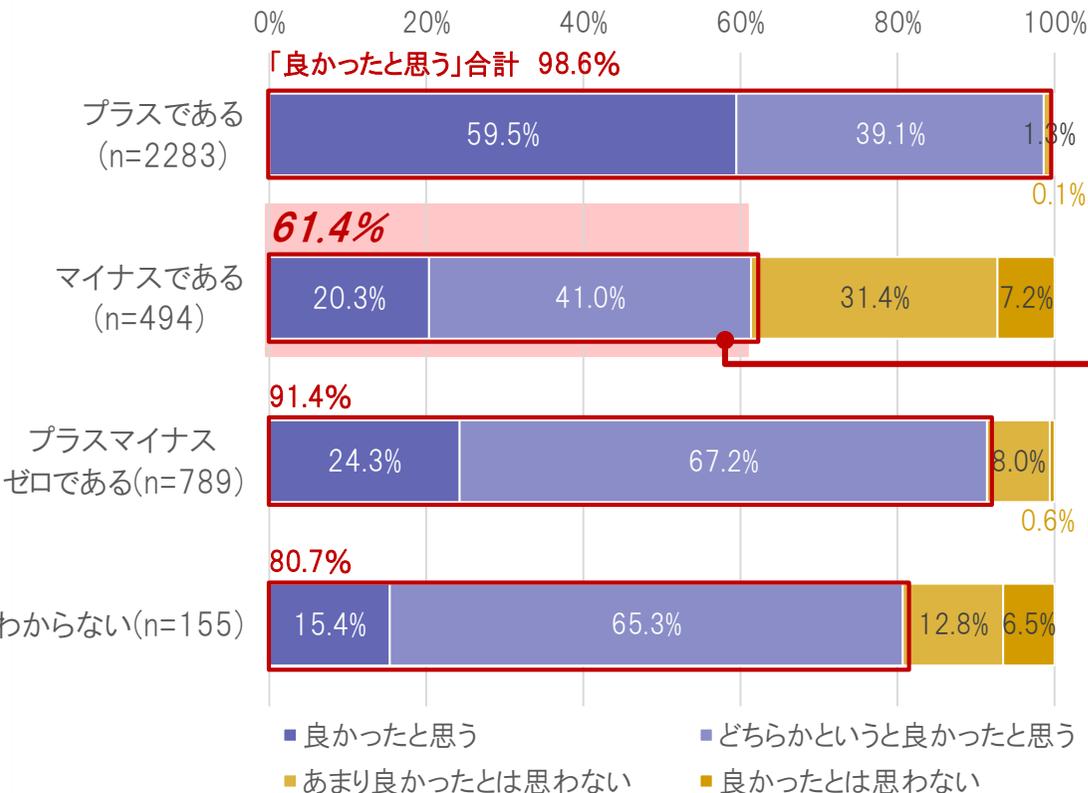
投資経験者の意向④ - 投資リターン別

投資リターンが「マイナスである」と回答した人でも、6割超は投資をしていて良かったと回答。その理由として、過半数は「お金に関する知識に関心が持てるようになったこと」を挙げた。

2月調査

投資をしていて良かったと思うか(投資リターン別)
(回答者)全員

(n=3,722) (単回答, WB後)



良かったと思う理由

(回答者)投資リターンが「マイナスである」かつ
投資をしていて「良かったと思う/どちらかという良かったと思う」と回答した人

(n=303) (単回答, WB後)

- 1位 お金に関する知識*に関心が持てるようになったこと 55.4%
- 2位 経済の動きに関心が持てるようになったこと 41.4%
- 3位 お金を稼ぐ方法は、労働だけではないと知ったこと 40.2%
- 4位 自分のライフプランについて考えるようになったこと 25.2%
- 5位 長期的な視点を持てるようになったこと 21.6%

* 調査票上では、お金に関する知識として、「運用、税制、商品、制度等」と例示

投資経験者の投資のきっかけ

2月調査より、投資経験者の投資のきっかけを分析することで、投資未経験者が投資への一歩を踏み出すための働きかけのヒントを紹介。

投資経験者の投資のきっかけ① - 投資性資産の購入先

一番初めに取引した資産の購入先はオフラインとオンラインが同程度、「勤務先」は2割弱。

WEB調査によるバイアスを考慮しても、投資性資産の購入先としてネット証券やネット銀行を活用する人が多いことが確認できた。また、勤務先の制度を活用する人も一定数存在することも確認できた。

所感

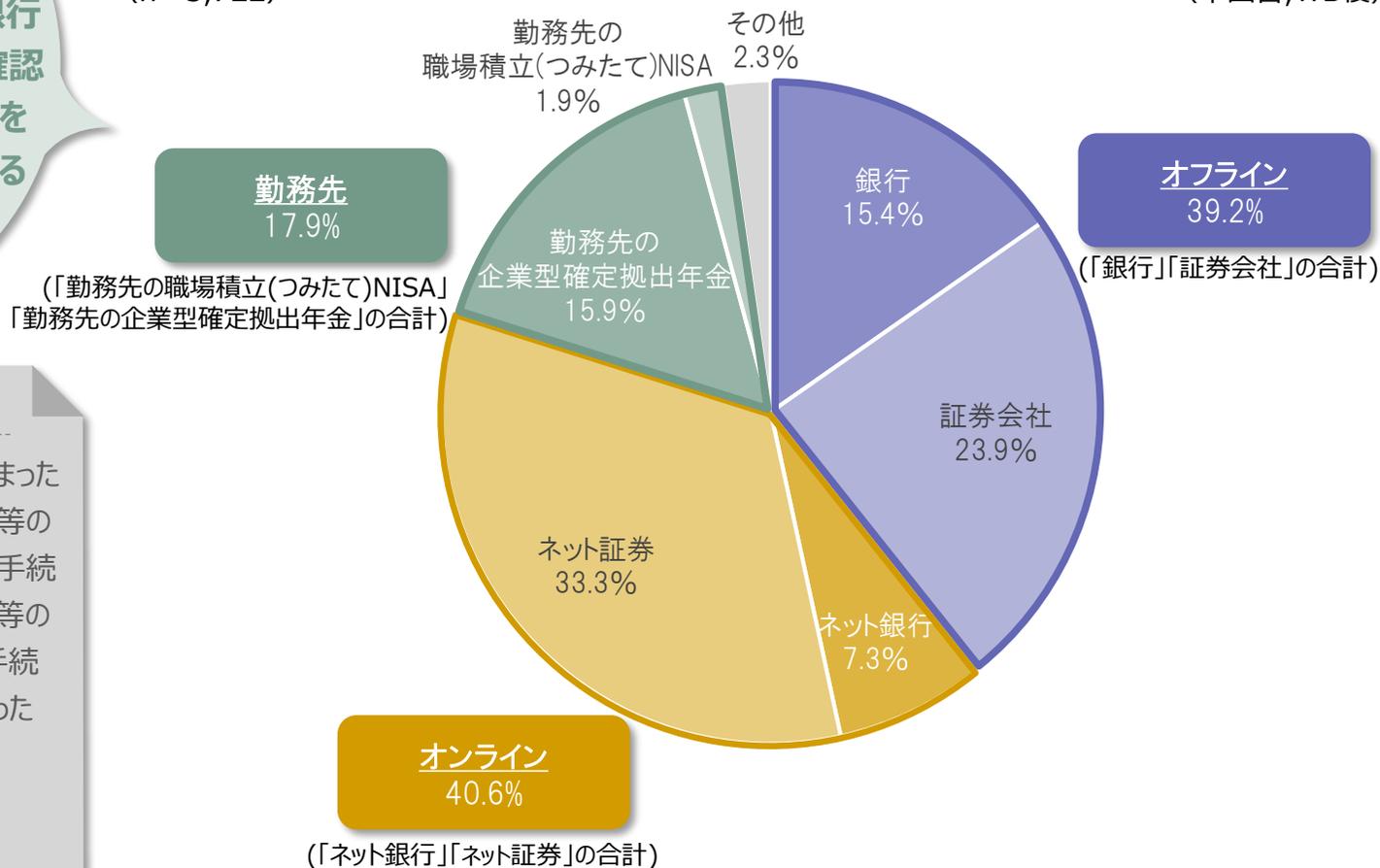
「初めての投資」のハードルが「まとまったお金がない」「十分な知識がない」等の意識や、「各種書類の郵送」等の手続き面だとすると*、勤務先での研修等の情報提供や、勤務先を通じての手続きにより、これらのハードルが低くなった可能性があると考えられる。

一番初めに取引をした投資性資産の購入先
(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

(単回答, WB後)



* 投資を始めるまでのハードルに関する分析は、「金融リテラシー1万人調査の概要(「投資をしている人」と「投資をしていない人」の違いとは)。(MUFG資産形成研究所, 2018年8月)をご参照。

投資経験者の投資のきっかけ② - 投資性資産の購入先 (男女・年代別)

男女とも、年代が上がる程「オフライン」での購入が多い。また、女性は「勤務先」で購入した人の割合が男性よりも高い傾向。

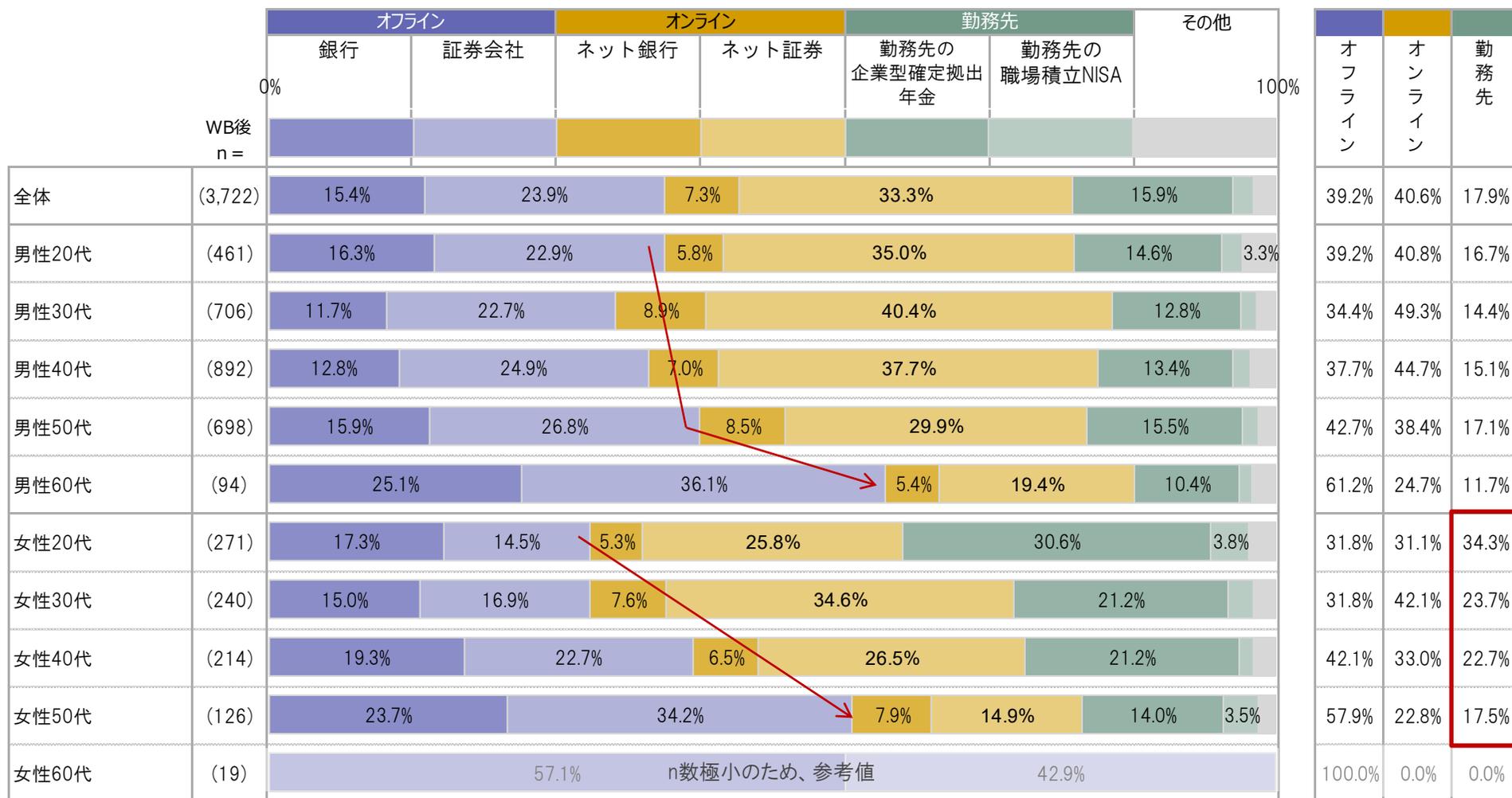
一番初めに取引をした投資性資産の購入先

(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

(単回答, WB後)



投資経験者の投資のきっかけ③ - 勤務先からの資産形成支援

企業型確定拠出年金制度は約5割が活用中であり、今後の活用意向がある人の割合も高い。

勤務先での導入率が高い持株会(約6割)、企業型確定拠出年金制度(約6割)、財形貯蓄(約5.5割)の中でも、企業型確定拠出年金制度の活用率は約5割と最も高い。

所感

企業型確定拠出年金制度の活用率が高い一方で、「資産形成やライフプランに関する研修・学習プログラム」の活用率は約5%にとどまる。

継続投資教育の実施率は78.7%との調査結果*もあるが、企業型確定拠出年金制度が導入されている企業においては、継続教育への参加率や認知度を向上させる余地はまだあると考えられる。

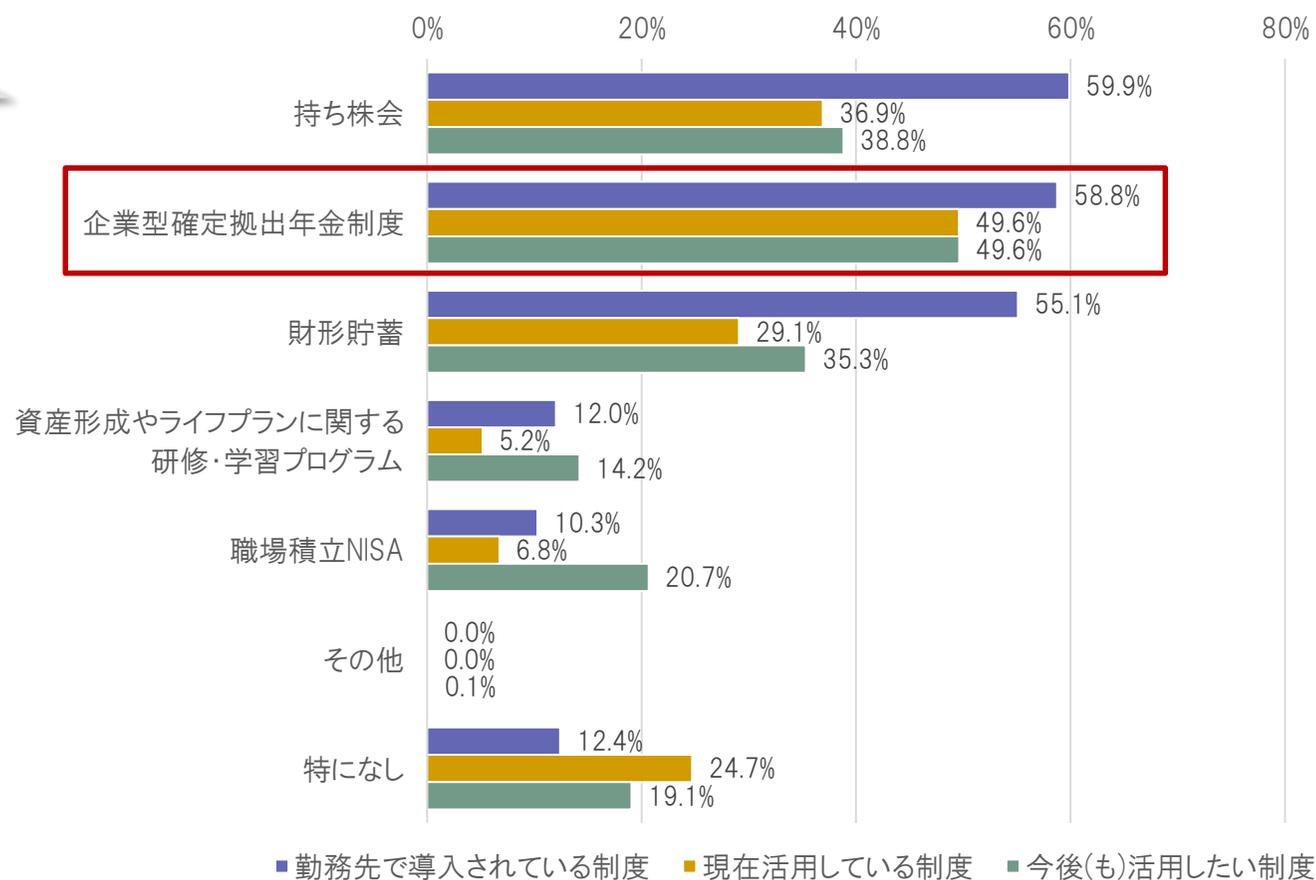
勤務先からの資産形成支援制度の活用状況

(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

(複数回答, WB後)



*「確定拠出年金実態調査結果(概要)」(企業年金連合会, 2020年2月28日)より。

投資経験者の投資のきっかけ④ - 投資のきっかけとなった環境変化や働きかけ

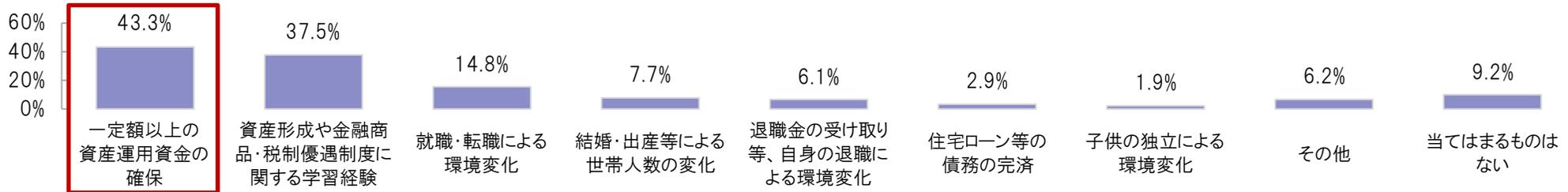
2月調査

投資のきっかけとしては、「インターネット取引等による利便性の向上」「一定額以上の資産運用資金の確保」等の環境変化を挙げる人の割合が高い。一方、働きかけとしては「勤務先」がキーワード。

きっかけとなった自身に関する環境変化

(n=3,722)

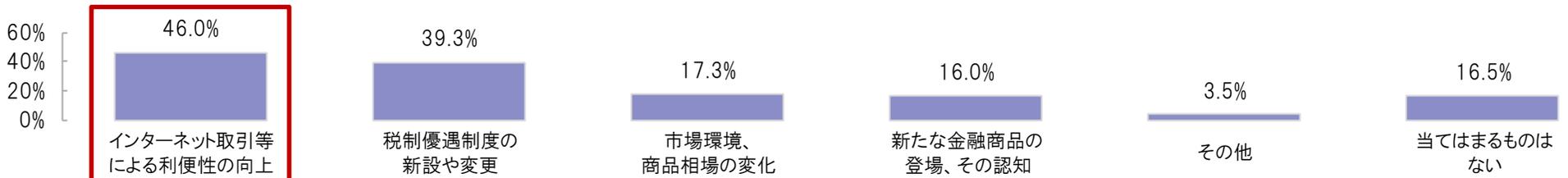
(複数回答, WB後)



きっかけとなった外部環境の変化

(n=3,722)

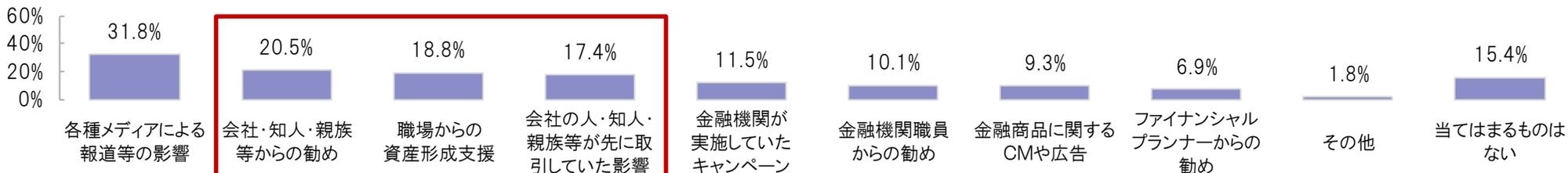
(複数回答, WB後)



きっかけとなった外部からの働きかけ

(n=3,722)

(複数回答, WB後)



投資経験者の投資のきっかけ⑤ - 投資を促す働きかけのヒント

投資のきっかけとなった外部からの働きかけとしては、メディアの影響に次いで、勤務先や職場の影響が大きい。勤務先からの働きかけが投資のきっかけとなる可能性が示唆される。

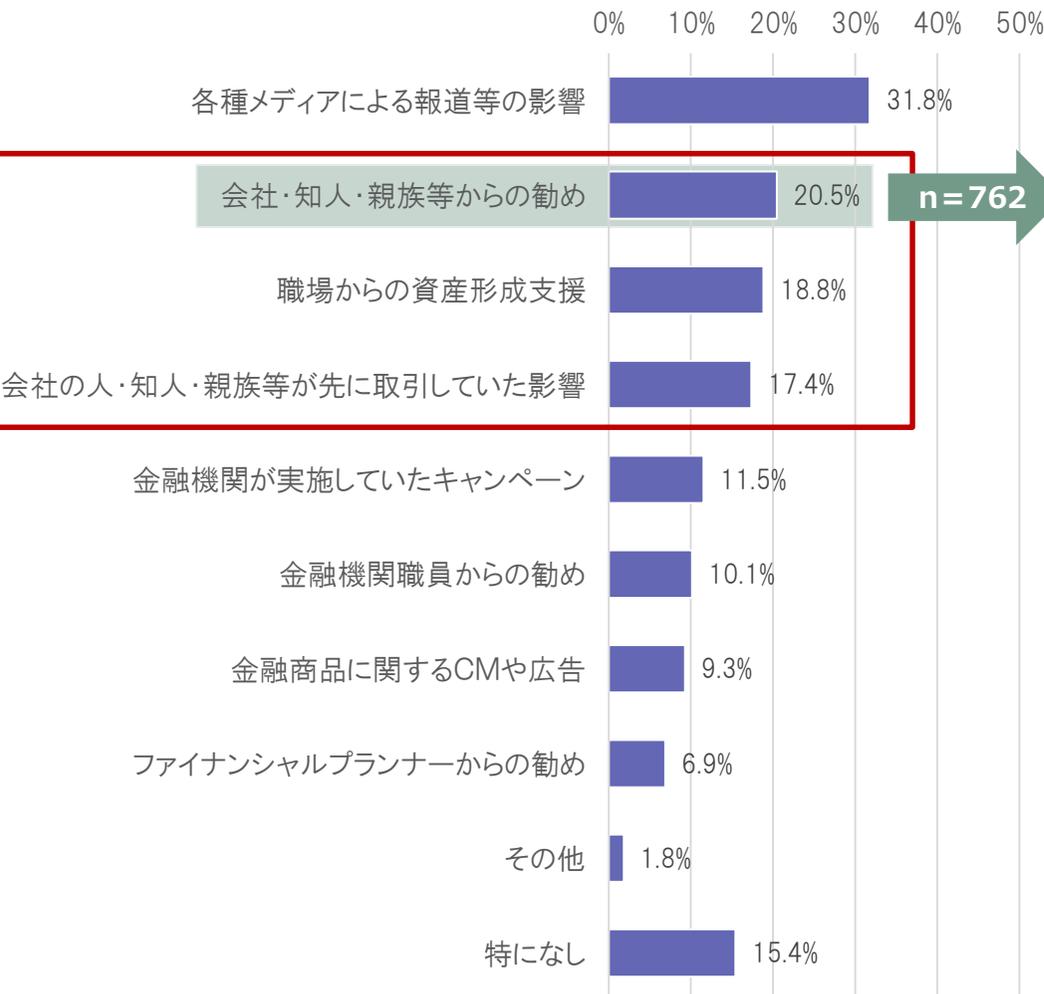
投資のきっかけとなった外部からの働きかけ

(回答者)全員

2月調査

(n=3,722)

(複数回答, WB後)



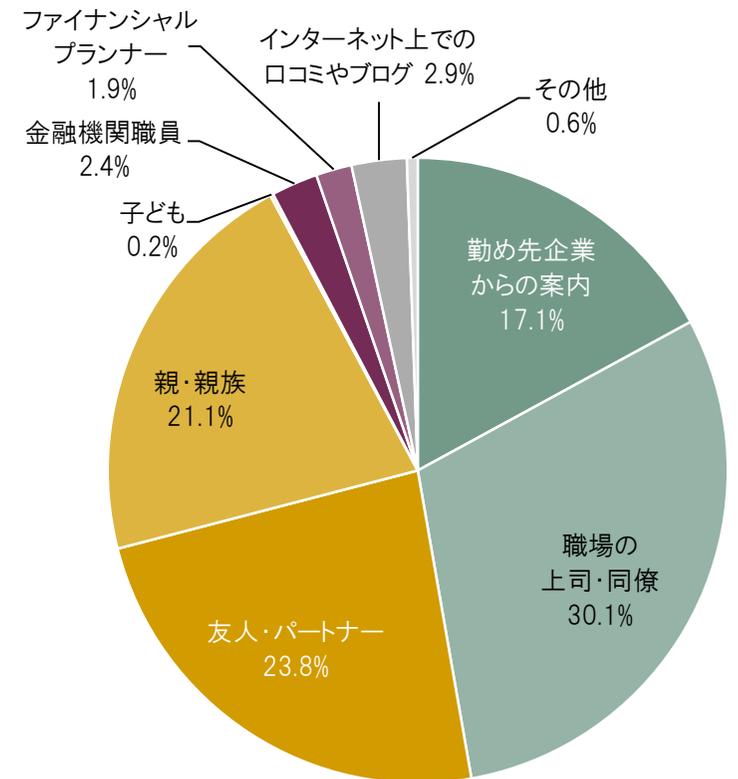
具体的には誰からの勧めがきっかけとなったか

(回答者)「会社・知人・親族等からの勧め」と回答した人

2月調査

(n=762)

(複数回答, WB後)



プライベート
45.0%

勤務先
47.2%

新型コロナウイルス感染拡大に伴う市場変動の影響

2月調査 と **4月調査** (新型コロナウイルス感染拡大に伴う金融市場変動前後)の比較を元に、投資の意向や投資行動への市場変動の影響を分析。

市場変動の影響は？

投資経験者の意向

- 2月調査からは、投資経験者の多くは、「投資をしていて良かった」と考えていることが確認できた。
- また、投資リターンがマイナスの人であっても、6割超はお金に関する知識や経済の動きに関心を持てるようになったことを理由に、「投資をしていて良かった」と感じていることがわかった。

市場変動の影響は？

- そんな中、2020年3月以降、新型コロナウイルス感染拡大に伴う金融市場変動を受け、メディア等でも株式市場の世界的な下落が取り上げられる機会が多くなった。
- そこで当研究所では、4月に投資経験者の意向の変化や投資行動について追跡調査を実施。以降の頁では、その結果を紹介する。

<市場動向と調査タイミング>



2月調査における投資に対する意向と4月調査の対象

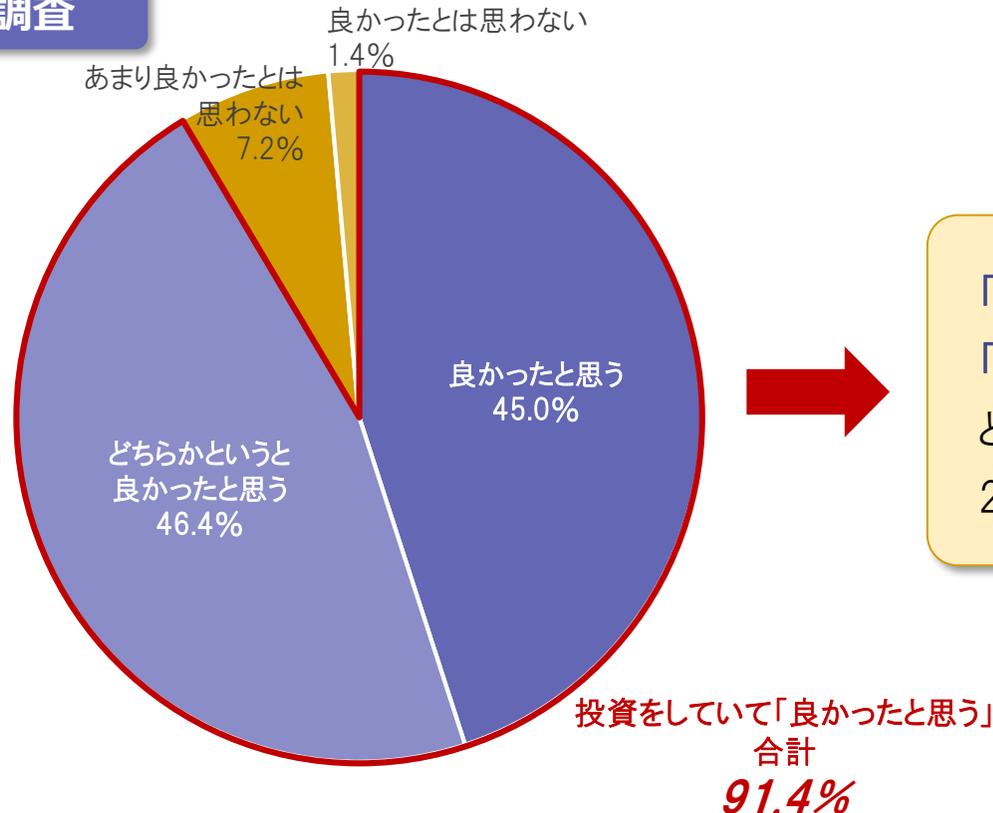
4月調査では、2月調査で投資をしていて「良かった/どちらかという良かった」と回答した人に対して追跡調査を実施。

投資をしていて良かったと思うか (回答者)全員

(n=3,722)

(単回答, WB後)

2月調査



4月調査

「良かったと思う」
「どちらかという良かったと思う」
と回答した人に追跡調査を実施し、
2,999名より回答を得た。

(1) 2月調査と4月調査の比較

4月調査における投資に対する意向

2月調査で投資をしていて良かったと回答した人のうち、4月調査でも「良かった/どちらかという良かった」と回答した人は約8割。

多くの人は市場変動を経た4月においても引き続き投資をしていて良かったと回答。一方、投資をしていて「良かったとは思わない/あまり良かったとは思わない」に転じた人も2割弱存在。

所感

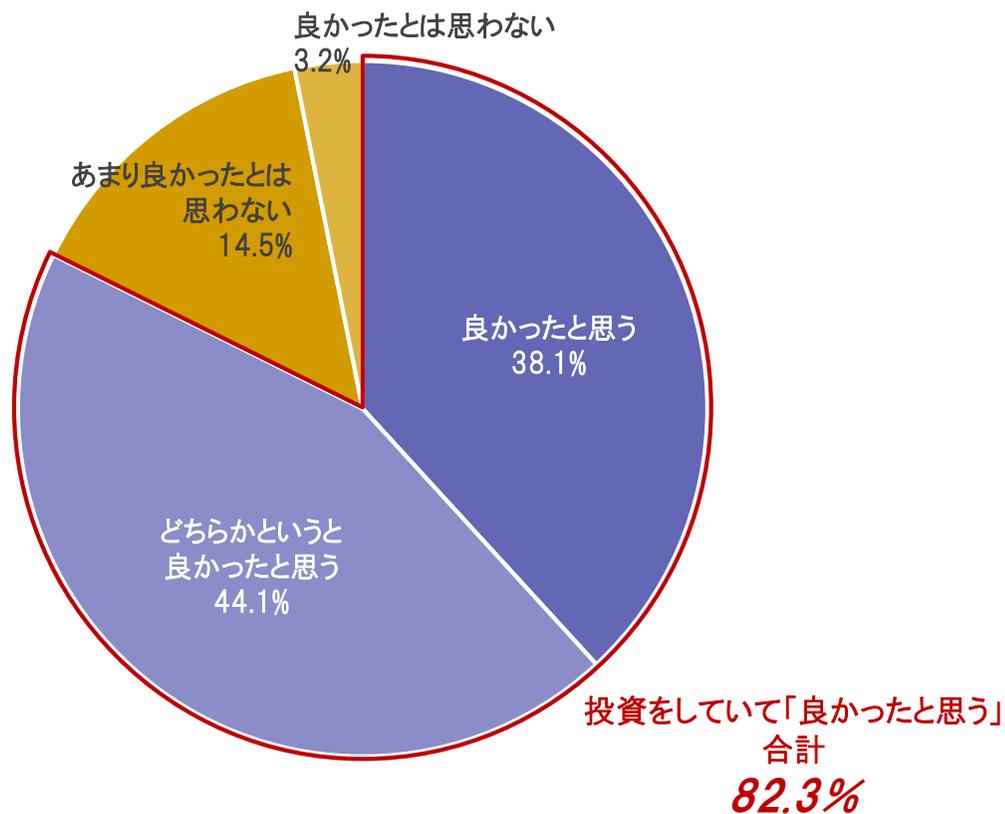
投資リターンの状況や、投資をしていて良かったと思う人/良かったとは思わない人それぞれの理由について、次頁以降で詳細を見ていくこととする。

投資をしていて良かったと思うか (回答者)全員

4月調査

(n=2,999)

(単回答, WB後)

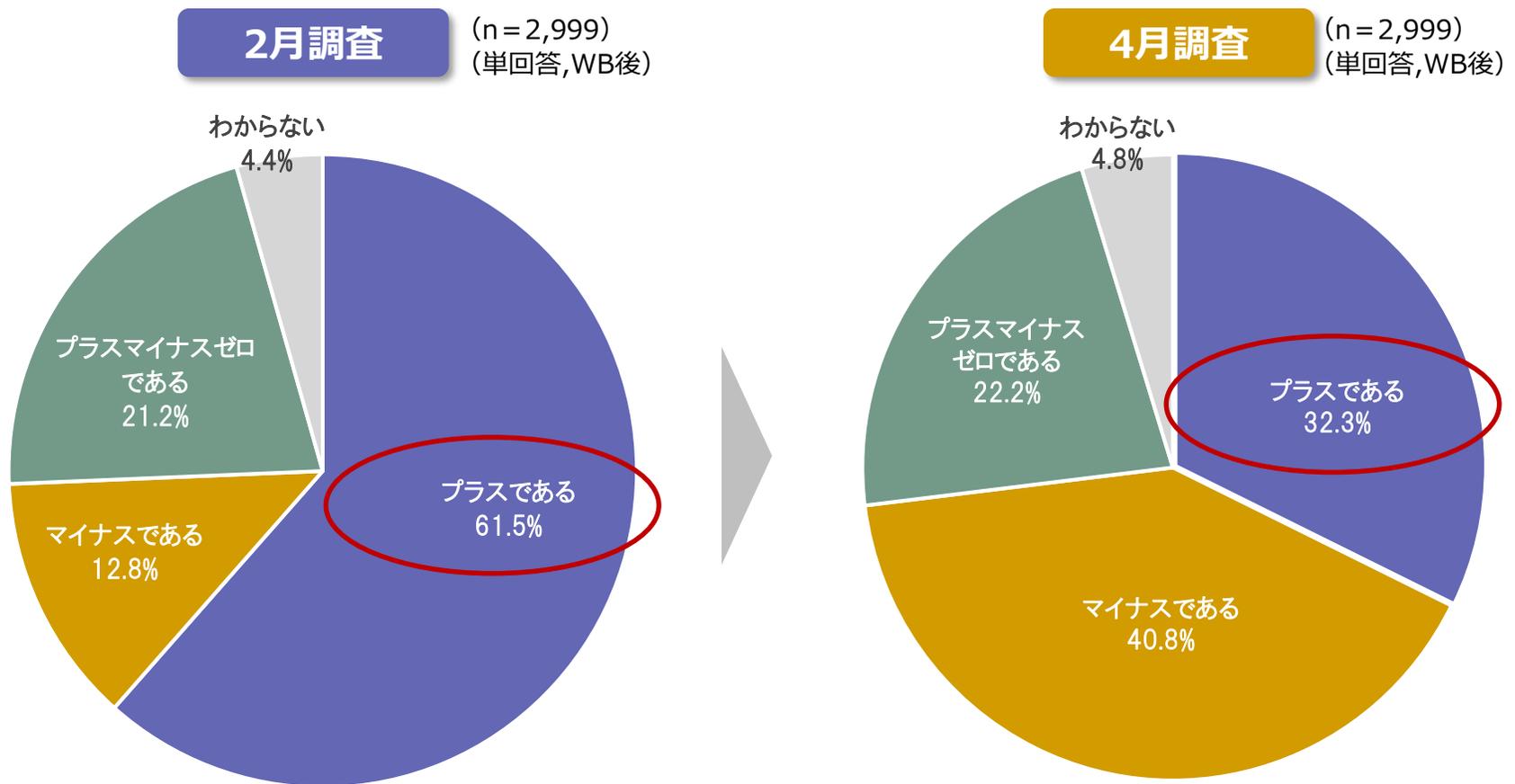


※4月調査は、2月調査で投資をしていて「良かったと思う」「どちらかという良かったと思う」と回答した人が対象。(22頁ご参照)

2月調査と4月調査の比較① - “投資リターン”の比較

投資リターンについては、4月調査では2月調査と比較してプラスと回答した人の割合が減少。

投資リターン
(回答者)4月調査の回答者全員



2月調査と4月調査の比較② - 良かったと思う理由

2月調査と4月調査とでは、投資をしていて良かったと思う理由の傾向はほぼ同じ。

投資をしていて良かったと思う理由(「資産が増えたこと」以外の理由)

(回答者)投資をしていて「良かったと思う/どちらかという良かったと思う」と回答した人

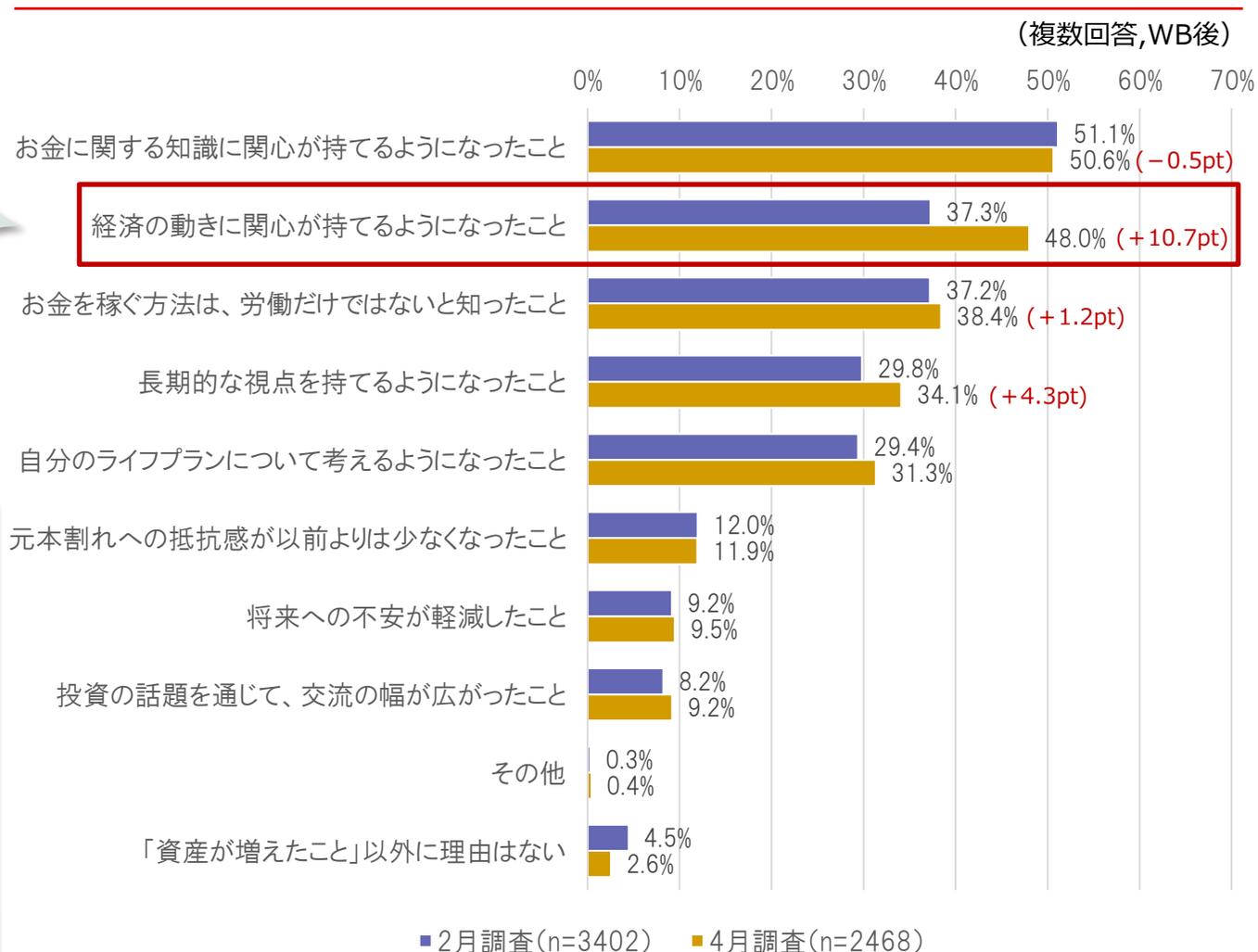
2月調査

4月調査

2月調査との差が見られる点として、4月調査では「経済の動きに関心が持てるようになったこと」を良かった理由として挙げた人の割合が約11pt高いことが挙げられる。

所感

自らの投資性資産の値動き等を通じて、マーケットや経済の動向に関心を持つようになった人が一定数いたと推測できる。このことから、投資を実際に体験することで、金融への関心が高まる機会が増える可能性があると考えられる。



※4月調査は、2月調査で投資をしていて「良かったと思う」「どちらかという良かったと思う」と回答した人が対象。(22頁ご参照)

2月調査と4月調査の比較③ - 良かったとは思わない理由

投資をしていて良かったとは思わない理由として「想定よりもリターンが少ない」を挙げる人が約4割と最多。

2月調査と4月調査との比較では、回答の傾向に大きな差は見られなかった。

所感

「想定より投資リターンが少ない」ことを理由に投資をしていて良かったとは思わないとする人は一定数存在する。市場下落の局面での投資への向き合い方を伝える等することで、投資をしていて良かったと思えない要因を解消できる余地はあると思われる。

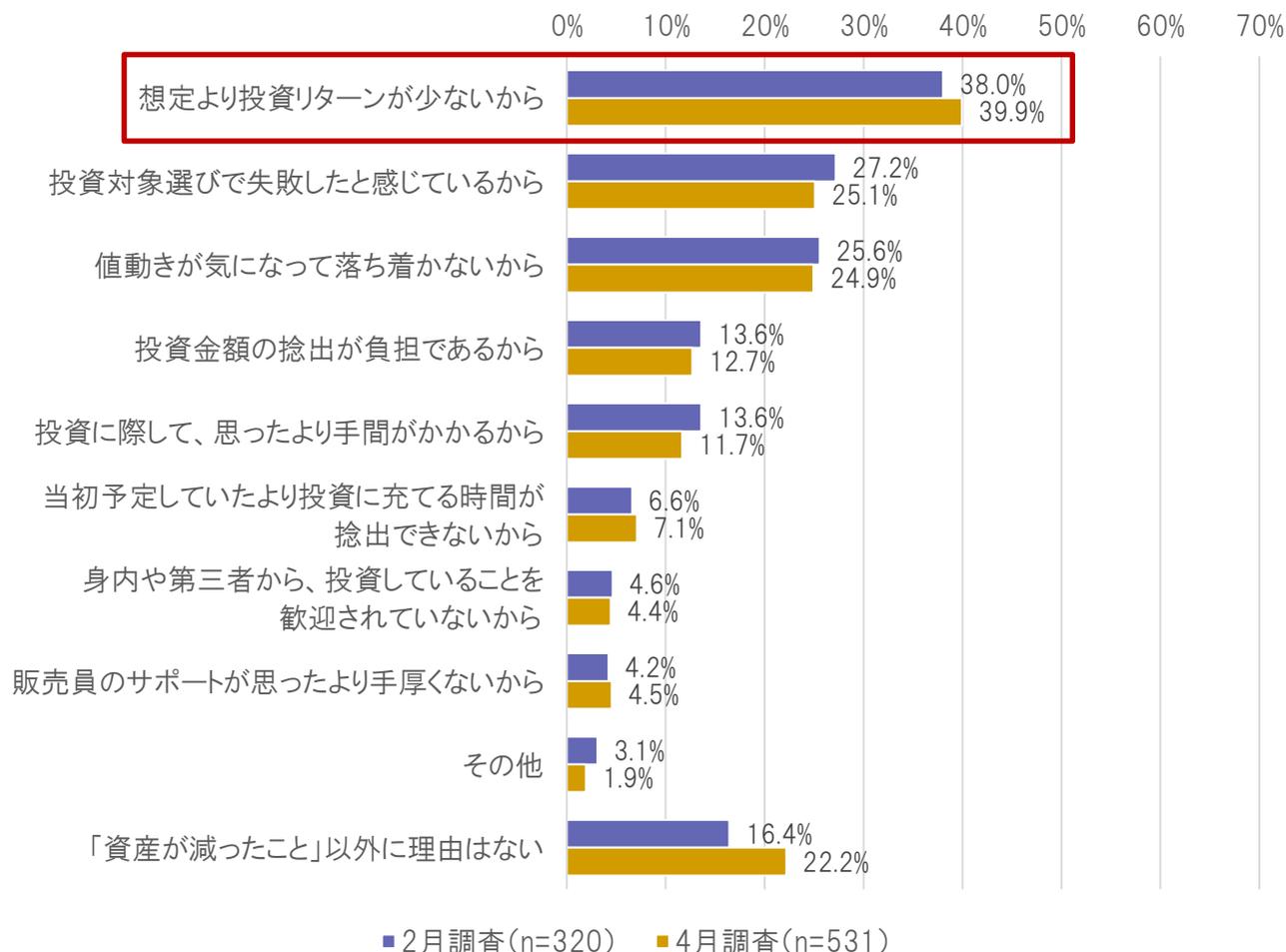
投資をしていて良かったとは思わない理由(「資産が減ったこと」以外の理由)

(回答者)投資をしていて「良かったとは思わない/あまり良かったとは思わない」と回答した人

2月調査

4月調査

(複数回答, WB後)



※4月調査は、2月調査で投資をしていて「良かったと思う」「どちらかという良かったと思う」と回答した人が対象。(22頁ご参照)

投資行動① - 一括投資部分

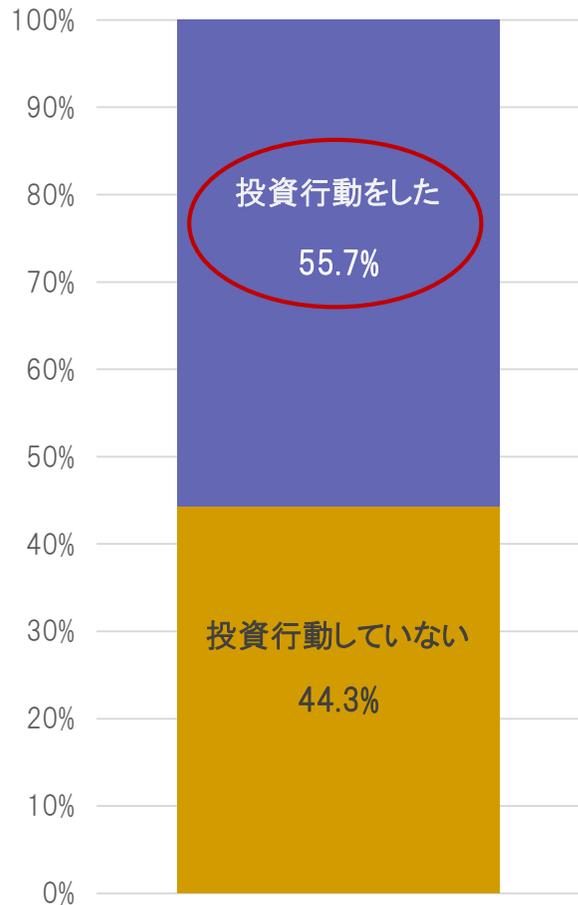
一括投資をしている資産については半数超が投資行動を実施しており、そのうち過半数は「余剰資金で購入した」と回答。

4月調査

3月以降の投資行動(一括投資部分)

(回答者)一括投資をしている人

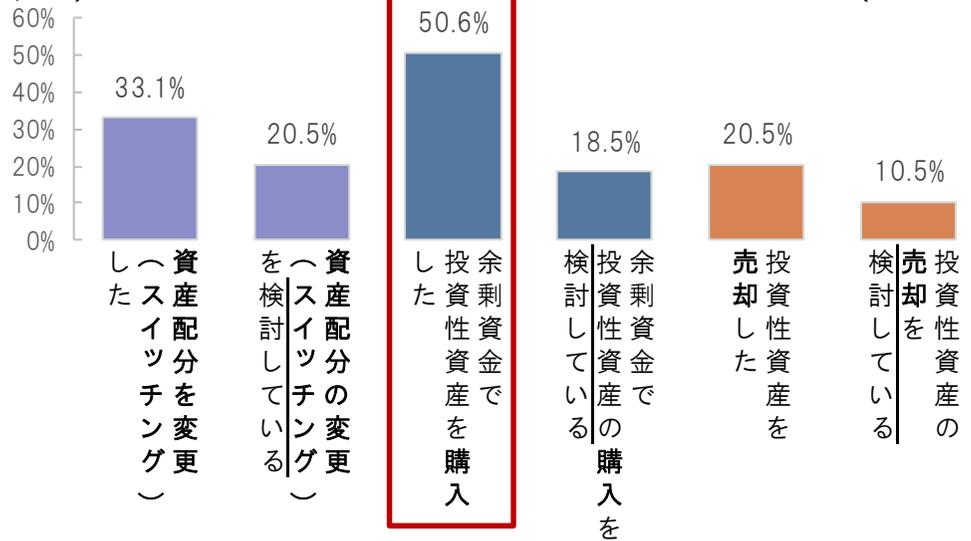
(n=2,167) (単回答, WB後)



投資行動の内容

(n=1,206)

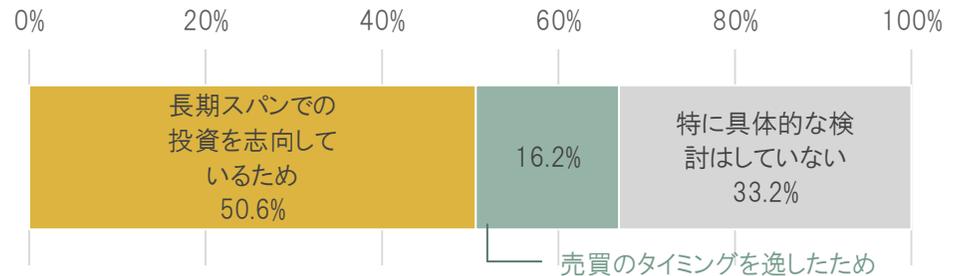
(複数回答, WB後)



投資行動しなかった理由

(n=961)

(単回答, WB後)



投資行動② - 積立投資部分

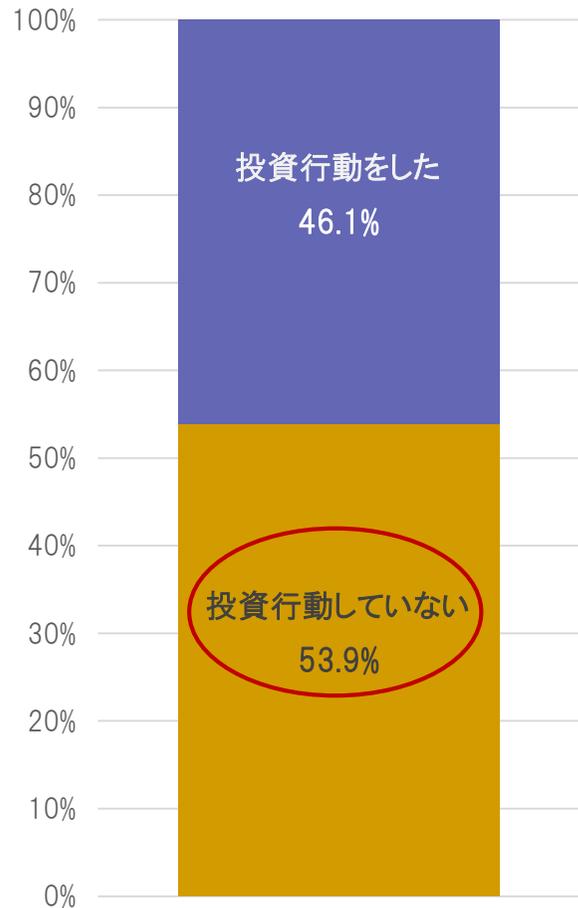
積立投資をしている資産については半数超が投資行動をしておらず、その理由として「長期スパンでの投資を志向しているため」を挙げる人が約6割。

4月調査

3月以降の投資行動(積立投資部分)

(回答者)一括投資をしている人

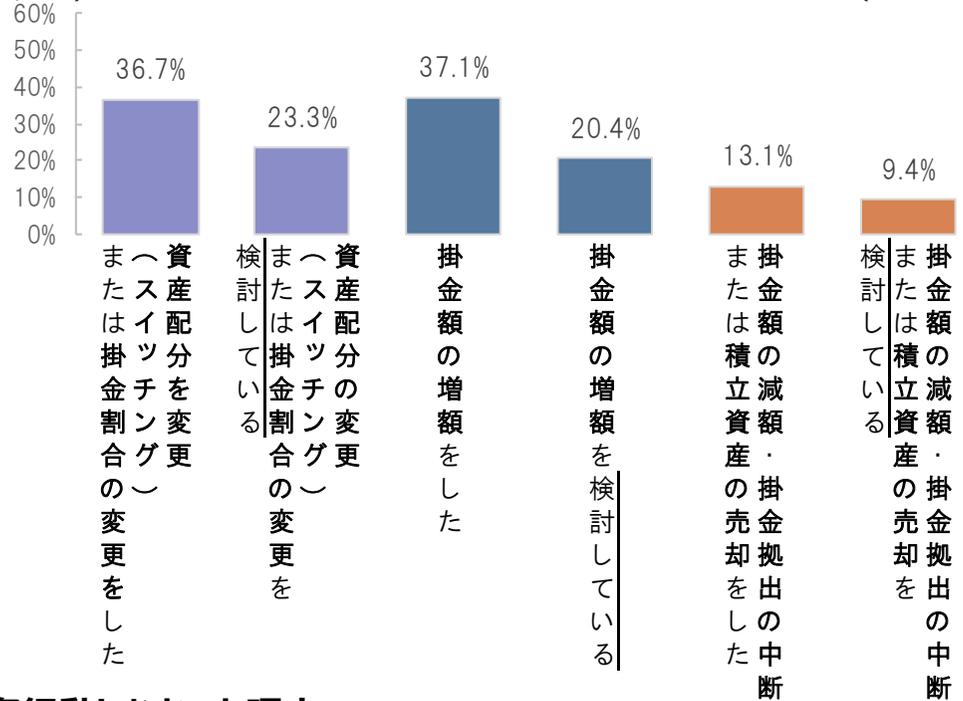
(n=2,177) (単回答,WB後)



投資行動の内容

(n=1,004)

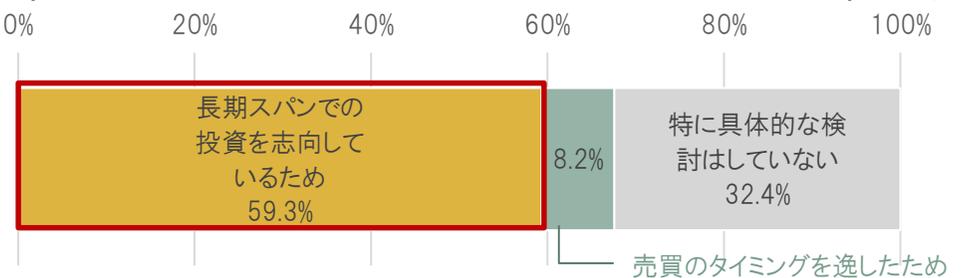
(複数回答,WB後)



投資行動しなかった理由

(n=1,173)

(単回答,WB後)



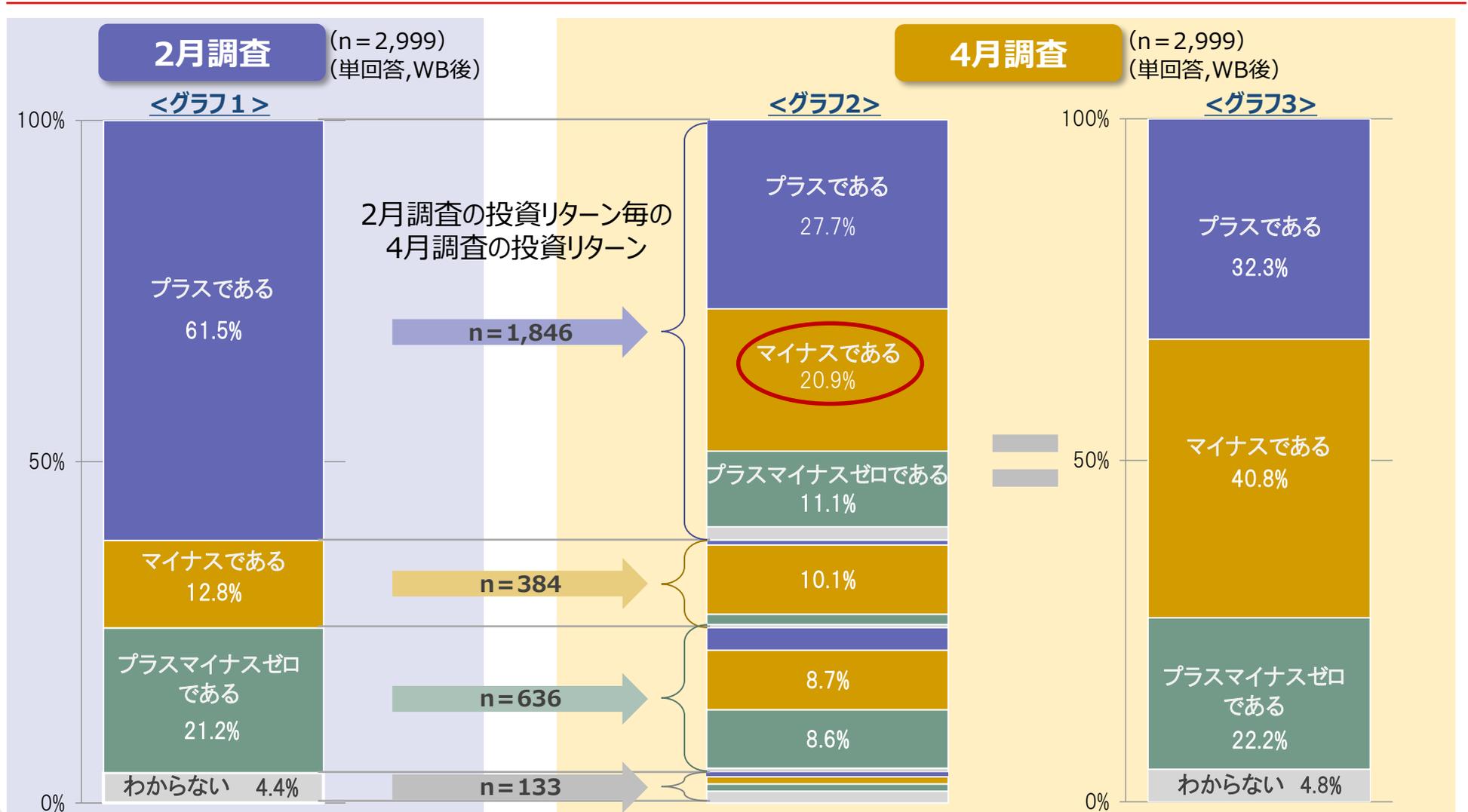
(2) 投資リターンがプラスから マイナスに転じた人の傾向

投資リターンの変化の状況

以降の頁では、市場変動の影響を最も受けていると考えられる「投資リターンがプラスからマイナスに転じた人」を中心に傾向を紹介。

投資リターン

(回答者)4月調査の回答者



投資リターンがプラスからマイナスに転じた人の傾向① - 投資をしていて良かったと思うか

投資リターンがマイナスに転じた人でも、8割超の人は引き続き投資をしていて良かったと回答。

<前頁グラフ2再掲> 投資リターン

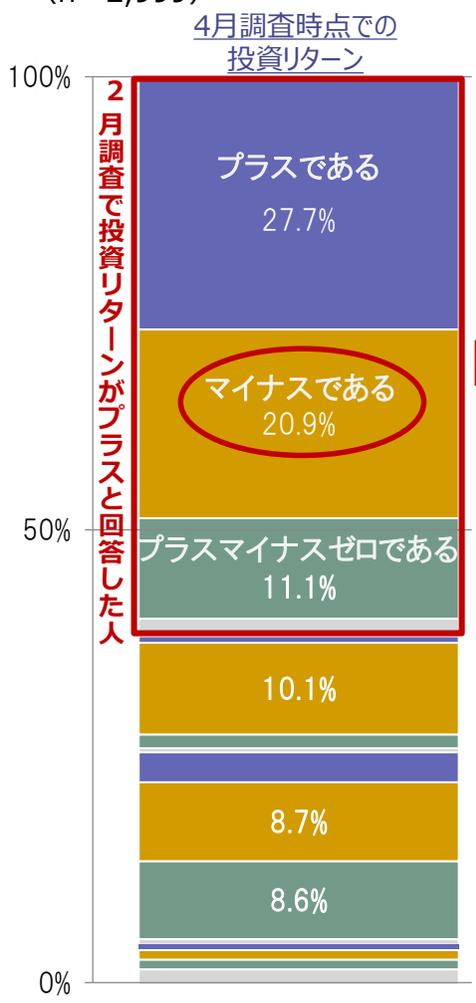
(回答者)4月調査の回答者 **4月調査**

(n=2,999) (単回答,WB後)

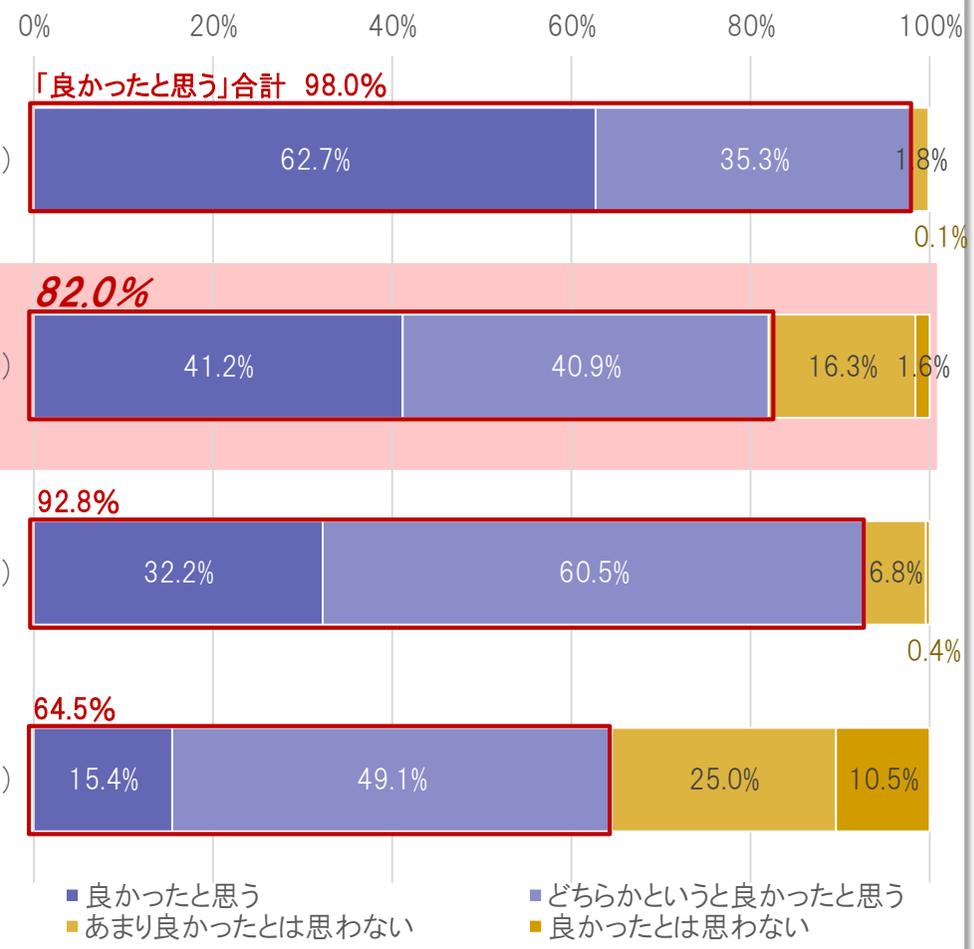
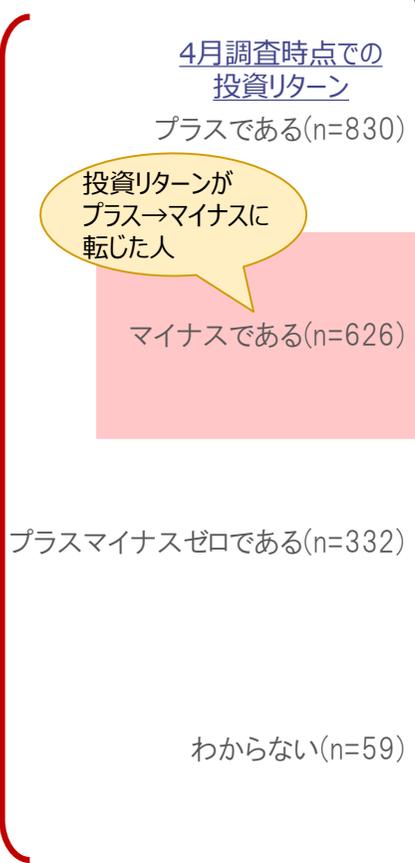
投資をしていて良かったと思うか(4月調査の投資リターン別)

(回答者)2月調査で投資リターンがプラスと回答した人 **4月調査**

(n=1,846) (単回答,WB後)



n=1,846



投資リターンがプラスからマイナスに転じた人の傾向② - 良かったと思う理由

投資リターンがプラスからマイナスに転じた人も、全体と比較して良かったと思う理由に大きな差はないが、各選択肢を選択する人の割合には僅かながら差が見られる。

投資リターンがプラスからマイナスに転じた人を抽出して見ると、「お金に関する知識」「経済の動き」「長期的な視点」を理由として挙げる人の割合が多い傾向が確認できる。

所感

13頁では、2月調査時点で投資リターンがマイナスの人が、それでも投資をしていて良かったとする理由として過半数が「お金に関する関心」を挙げたことを確認した。

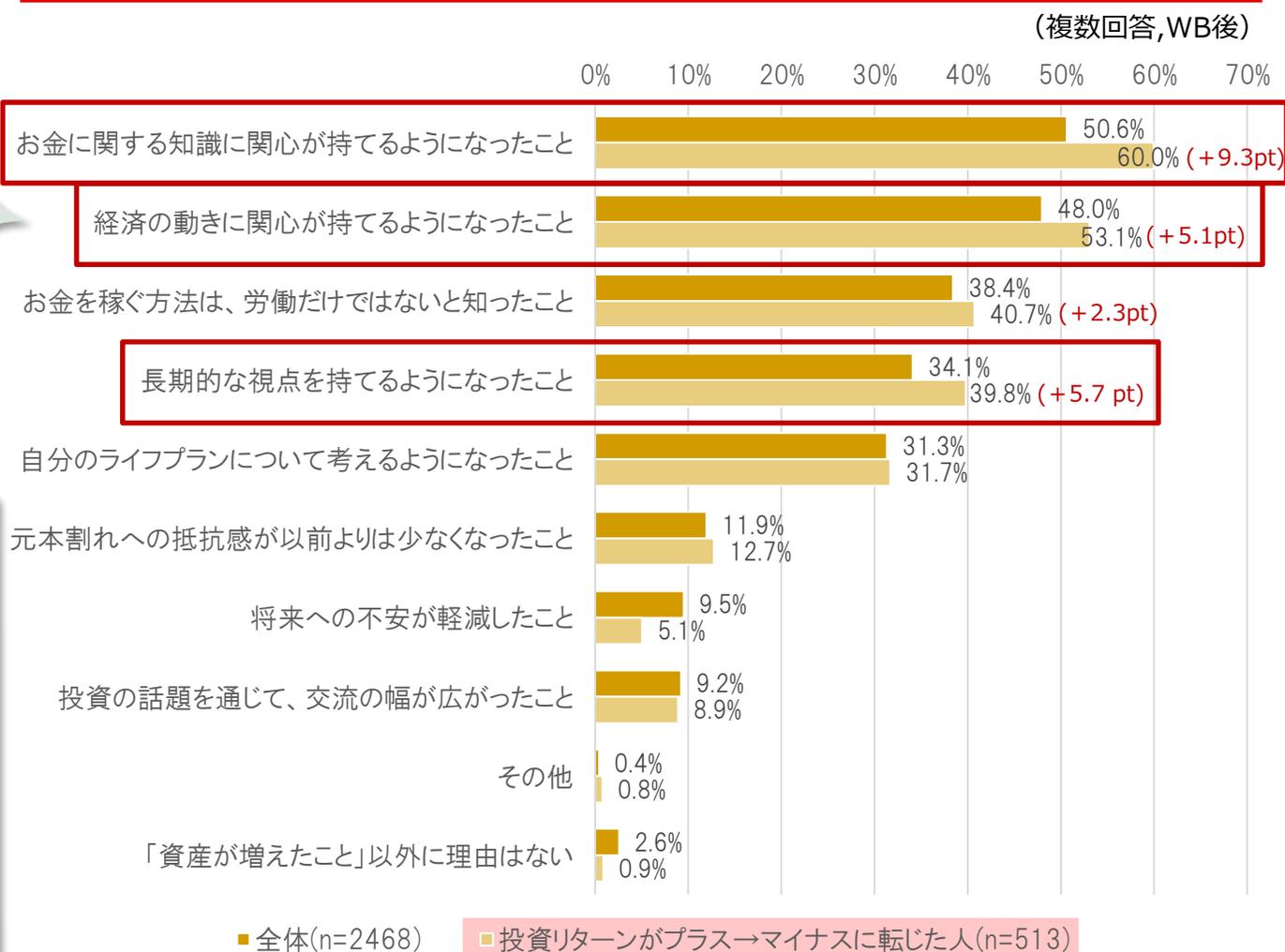
本頁では、2月調査から4月調査の約2か月間という短期間で投資リターンがマイナスに転じた人の傾向を見てみた。

短期的な値動きに一喜一憂することなく、知識や関心の向上を理由に投資をしていて良かったとする人が一定数存在することが再確認できたといえる。

投資をしていて良かったと思う理由(「資産が増えたこと」以外の理由)

(回答者)投資をしていて「良かったと思う/どちらかという良かったと思う」と回答した人

4月調査



投資リターンがプラスからマイナスに転じた人の傾向③ - 良かったとは思わない理由

良かったと思わない人全体と比較すると、投資リターンがプラスからマイナスに転じた人は、「値動きが気になる」を挙げる人の割合が多い傾向が見られる。

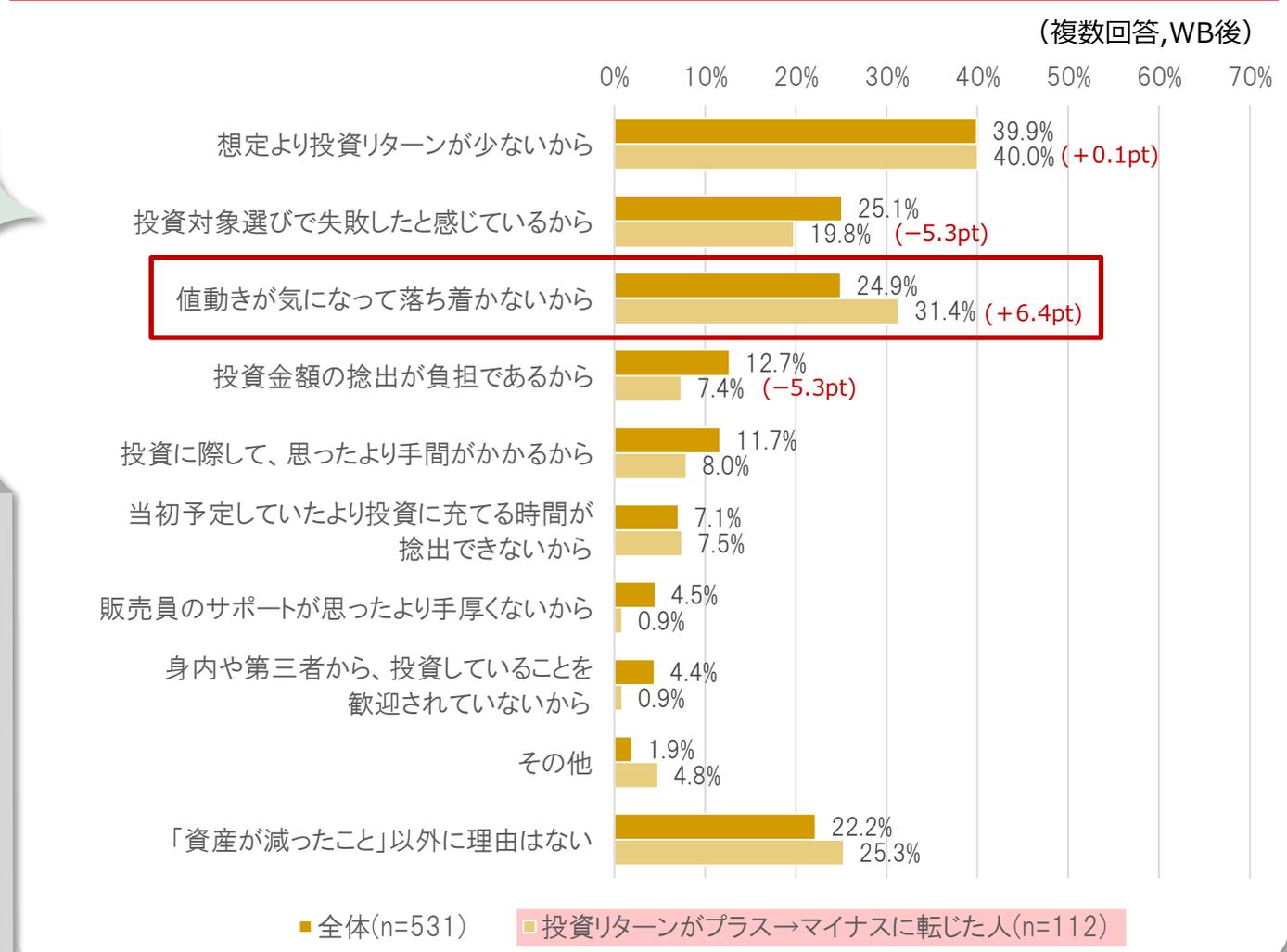
4月調査で投資をしていて良かったとは思わないと回答した人のうち、投資リターンがプラスからマイナスに転じた人は、「想定よりも投資リターンが少ない」に次いで「値動きが気になる」点を理由として挙げた人が多い。

所感

2月調査から4月調査の約2か月間という短時間で投資リターンがマイナスに転じ、かつ投資をしていて良かったとは思わないと回答するに至った人は、投資リターンによる要因に加え、値動きにストレスを感じている様子が伺える。市場変動が大きい局面においては、投資をする際の心構えに対するフォローが求められている可能性がある。

投資をしていて良かったとは思わない理由(「資産が減ったこと」以外の理由)
(回答者)投資をしていて「良かったとは思わない/あまり良かったとは思わない」と回答した人

4月調査



ご留意事項

- MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が、現役世代から退職後の世代までを対象に資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を行う際の呼称です。
- 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の取得・勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載の情報は作成時点のものです。また、本資料は三菱UFJ信託銀行が各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性について保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、三菱UFJ信託銀行は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は三菱UFJ信託銀行の著作物であり、著作権法により保護されております。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、三菱UFJ信託銀行までご連絡ください。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行 資産形成アドバイザー部
E-mail : mufg-sisan_post@tr.mufg.jp

三菱UFJ信託銀行株式会社 資産形成アドバイザー一部
〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5

www.tr.mufg.jp/shisan-ken/

MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を対外的に行う際の呼称です。